

平成29年度 学校評価シート

学校名：新宮高等学校 定時制

学校長名：畑 伸 憲 印

目指す学校像・育てたい生徒像	・「知・徳・体」を磨き、人間形成を図るとともに、郷土や日本社会・国際社会に貢献しようとともに新しい伝統を創造する生徒を育成する学校 ・学びを大切に、生徒に向き合う教育を実践する地域に開かれた学校
----------------	--

本年度の重点目標	1 基礎学力の向上に向けて、わかる授業の実践を行い、基礎・基本の定着を図る
	2 学業と就業の両立を推進し、望ましい職業観・勤労観の育成を図る
	3 生徒一人ひとりの自立心や相互に尊重し合う心を涵養する
	4 学校行事、教育相談等の充実を図り、特色を生かした教育実践を行う

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方針の公表の方法
全職員、学校評議員、育友会 (PTA) 役員・理事への報告

自己評価

重点目標

年度評価 (3月9日現在)

番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方針
1	就労生徒や小・中学時代の不登校経験者、他校からの転入生、高校への再チャレンジの生徒等が在籍している。中途退学者数も増える傾向にあり、生徒一人ひとりの多様なニーズやつまづき等に対応する必要がある。学習内容の厳選や学習指導の方法・形態等、工夫や改善等が課題である。	生徒の基礎学力の向上やわかる授業の実践に向けて、教材研究や指導法の改善等、創意工夫に努めているか。	学習内容や指導方法についての工夫や改善 研究授業や公開授業の実施 授業規律の確立 補習授業の実施	教材の精選、視聴覚教材等を積極的に活用する。 研究授業と授業公開を必ず実施する。 遅刻・早退、欠席生徒 (授業の中抜けを含む) への指導を徹底する。 長期休業中等に遅進者補習	○視聴覚教材や PC、自主教材等を活用し、教科によっては工夫が見られた。 ○学校開放月間の2日間と通常の社会科 (日本史) の授業公開を3回実施した。 ○欠席生徒等への家庭連絡は適切に行なった。 ○夏休みの成績不振生徒に対する補習は全員が参加した。	B	○引き続き学習指導要領の趣旨を理解し、わかる授業の確立を目指して指導法の工夫・改善を行う。 ○授業改善に向けて、全教科で研究授業と授業研究協議を実施する。 ○引き続き授業規律の確立につとめる。 ○学年末の追認補講のあり方を検討する。
2	全国的には景気が上昇傾向にあるが、本校生徒を取巻く環境は依然厳しい状況にあり求人はほとんどない。生徒の学力不足、社会性の欠如、進路意識の低下等から、卒業後の進路保障が困難な状態である。	生徒の就労・学習実態を把握し、職場・家庭・ハローワーク等との連携を密にし、定時制生徒に適した望ましい職業観・勤労観を育むための具体的な取組が展開されているか。	家庭訪問や三者面談、個人面談の実施 進路意識向上のためのガイダンス機能の充実とハローワークとの連携の強化 就業所訪問の実施	1回以上、家庭訪問 (三者面談)、個人面談を実施する。 各学期毎にガイダンスや進路講演会を開くとともに、ハローワークとの連携を密にし、情報を生徒に伝える 就業所を訪問し就労実態を把握するだけでなく、正規採用に繋がる取組をする。	○三者面談 (個人面談) は1回以上行った。家庭訪問は、かなりきめ細かく実施することができた。 ○就職・進学とも、当初から希望していた生徒に対しては、目標を達成することができた。 ○ガイダンス等きめ細かい手立てができた。 ○就業所訪問は全てを訪問することができた。	B	○近隣校や関係機関と情報共有を図り、新規求人開拓を図る。 ○従来の「卒業第一」という考えから、「卒業後何をするか、どのようにして社会貢献するか」を各生徒に考えさせる指導を検討する。 ○職業適性試験等を実施し、生徒個々の適正能力を自覚させる。
3	家庭的に恵まれない生徒が少なくない。一人ひとりの繋がりがりや集団に対する帰属意識も希薄であるため周囲に流されやすく、他者を思いやり、自らの行動を正しく選択し意思決定する機会が少ないのが現状である。	自分の将来や生き方について、希望を持たせ、精神的・社会的な自立を促し、集団社会の一員としてお互いに尊重し、よりよい生活態度を構築していこうとする態度が養われているか。	人権 LHR 等の充実 生活体験発表等の実施 教室をはじめとする施設・設備の美化と清掃活動等の実施 LHRをはじめとする特別活動の充実	各学期毎に人権 LHR を実施し、人権尊重の精神を養う。 発表を通じて学校生活への意欲や自立心を引き出し、自己肯定感を養う。 体験活動を通じて、環境保全に努める態度を養う。 集団生活や社会生活に必要な社会的資質を育成する。	○学期に1回以上、人権 LHR を実施した。1学期には現職教育も実施した。 ○一斉清掃を毎日実施し、日常の教室等の美化保全に努めることができた。 ○学校行事等の特別活動への参加率は9割に近かった。 ○LHR や特設 AS を必要十分に実施することができた。	B	○来年度も人権年間指導計画に基づき、講演、福祉体験、ビデオ鑑賞等の形式で、身近な問題として考えられるよう工夫する。 ○校内生活体験発表会の内容・運営面での充実をはかる。 ○美化や環境保全の態度を養う機会を設定する。 ○学校行事等への参加をより一層促す。そのために、ロングや総学の内容充実を図る。
4	生徒が学校行事、特別活動等に費やす時間が少ない。また教員が校内で生徒一人ひとりに向き合う時間も制限されている。定時制の特色を活かし、教育相談等を活用しながら、一人ひとりを大切にする指導を目指す必要がある。	本校の特色を活かした行事等への参加を通じて、生徒一人ひとりが満足した高校生活を送り、生徒が抱える様々な問題を見逃さないきめ細かな指導ができていくか。	春・秋の遠足と保護者・教職員参加のレクリエーションの実施 クラブ活動や生徒会活動の充実 SC (スクールカウンセラー) の活用や地域や関係機関との連携	様々な行事を通じて生徒間、教師・保護者との親睦を図る。 クラブ活動参加等による高校生活の充実を図る。 心の相談や不登校・特別支援が必要な生徒へ対応し、関係機関と連携を深め、問題解決を図る。	○修学旅行、春秋の遠足、校内球技大会、予餞会等例年通り実施することができた。生徒の参加率も9割程度であった。 ○映画鑑賞会、避難訓練等生徒会主催の行事を数多く実施することで、生徒自身が自信を持って物事に取り組む姿勢が生まれてきた。 ○ SC を適切に活用することができた。	B	○就労生が多いので難しい面があるが、行事等の参加を通じて帰属意識を育てる取組を粘り強く行う。 ○今年度で陸上競技部に所属する生徒が卒業し部の存続ができない状況になった。年度当初に生徒が参加しやすいクラブを設定する。 ○引き続き教育相談、特別支援体制の充実を図る。

学校関係者評価

平成30年1月10日～26日 実施

学校関係者からの意見・要望・評価等

学校評議員、育友会役員、及び保護者に学校関係者評価を実施。(計23名)

<プラス面>
 以下は、ほぼ全員が「そう思う」か「どちらかというと思う」と回答した質問
 ○本校定時制が当地域で一定の役割を果たしている
 ○本校の生徒は、学業と勤労を両立させている
 ○公共の施設や設備を大切に使用している
 ○当地方に定時制教育が必要

<マイナス面>
 アンケート項目の内、「明るく生き生きと学校生活を送っている」と「保護者や地域の意見が取り入れられている」「本校の生徒が将来社会人として生きていくための取組は十分行われている」については、他と比べて「そう思う」の比率が少し低い。

<直接的な意見>
 学校に対していくつかの感謝の言葉があると同時に、更なる教育の充実を望む声もあった。
 ○定時制はいつまでも地域に密着して存続してもらいたい。
 ○一人ひとりを大切にしてくれてとてもありがたい。
 ○教室がきれいで、設備も整っていて生徒も満足している。